

筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者の嘔吐殺人事件で、被害者側が亡くなって1年。治療法がなく、病状が進行するなか、家族への負担を強いられることと生きる意味・価値を見失った苦悩・絶望感から命を絶つことを選んだことに心が痛みます。

「この事件を聞き、脳梗塞で寝たきりになった夫を23年間にわたり介護したというAさんの話を思い出しました。」

全身が麻痺し、泣くか笑うかの表情でしか自分の意思を伝えられない夫に対し、介護の知識もなく、初めのうちは手探りで苦悩の日々。電動ベッドもなく、毎日何度も起こしては車いすに乗せ、食事の世話をするなど必死だったそうです。

最期の6年間は、胃ろう（※）や痰取りなど、昼夜を問わずの介護で、咳や小さな物音でも目が覚め、いつ発作が起ころか、もし災害が起ころたら、という不安で、寝間着に着替えて寝られたことは一度もなかったといえます。それでもやってこられたのは、病院の先生やケアマネジャー、ヘルパーの皆さん、介護経験のある友達など、多くの人の支えがあったから。「たくさんの人に助けてもらって本当に運がよかつ

※飲み込む力の低下などから、胃に直接栄養や水分などを投与するための医療措置

た。私は幸せだったよ。だって、最後まで夫を介護できたことで、夫婦の時間がいっぱい持てたんだもの」と話していました。介護のさなか、Aさんは「お父さんは病人じゃないんやで。手足が動かない障害者なんやから、胃ろうは眼鏡と一緒にいつも言い続けたといっています。」

本人は、身体が動かない、何もできないといった状態の中「いつか死にたい」と思ってしまうことがあるかもしれません。でもAさんは、介護や胃ろうを、眼鏡をかけるのと同じだと思つて、不自由を受け入れて生きてほしい。あなたと一緒に生きることが私の幸せだということ伝えてきたのではないのでしょうか。Aさんの夫の命は、ただ生かされていたのではなく、Aさん自身にとっても生きる支えになっていました。2人は、助ける、助けられるではなく、お互いが大切な存在であり、共に支え合つて生きてきたのです。

自分の命は、決して自分だけのものではありません。有名人の自死報道が相次ぐ中「命の大切さについてもう一度考えてみてください。」

《人権啓発推進課》



1人分約256kcal 塩分約2.4g

材料4人分

- ◆豚ロース肉(生姜焼き用)……220g
- ◆液体塩こうじ……大さじ4
- ◆玉ネギ……100g
- ◆マイタケ……100g
- ◆キャベツ……200g
- ◆トマト(中)……1個
- ◆小麦粉……大さじ2
- ◆サラダ油……大さじ2
- ◆すりシヨウガ……小さじ2
- ◆みりん……大さじ2
- ◆しょう油……小さじ1

作り方

- ①豚肉は筋切りをしてボウルに入れ、液体塩こうじ大さじ2を加えてよく揉み込み、冷蔵庫で1時間以上置く。玉ネギは3mm幅に切り、マイタケはほぐしておく。キャベツは千切り、トマトはくし形に切って皿に盛っておく。
- ②①の豚肉をバットに広げて小麦粉を茶こしで両面に振る。フライパンにサラダ油大さじ1を入れ中火で熱し、豚肉を焼く。両面に焦げ目が付いたら取り出し、食べやすい大きさに切っておく。
- ③フライパンに付いた汚れた油をふき取り、残りのサラダ油を入れて玉ネギとマイタケを炒める。しんなりしてきたら豚肉を戻し、残りの液体塩こうじと、混ぜ合わせた(A)を加えて絡め①の皿に盛る。

冬は新型コロナウィルス感染症に加え、風邪やインフルエンザにも注意が必要ですね。今回の料理のポイントとなる発酵食品の「塩こうじ」には、免疫力アップや疲労回復の効果があります。また、タンパク質を分解して漬け込んだ食材を柔らかくする作用もあります。

【協力】谷口久美子(食生活指導士)



糸井文庫

「海辺の京都浮世絵コレクション」

第31回

石川五右衛門二代目風雛助眠獅

いしかわえもん
にだめあらしひなすけみんし

【絵師歌川豊国3代】(年代文タ3)1863年大さじ33号×12.8号

※実物は11月20日(日)までふるさと学習館郷土資料館で展示中。今月は歌舞伎小屋へようこそ！がテーマ。

江戸時代は、庶民の文化が開花した時代で、文化の担い手である庶民に最も人気のある娯楽が歌舞伎でした。そのため、同じ時代に発展した浮世絵も、彼らの最大の関心事である歌舞伎の舞台や役者を主題とした「役者絵」が多く出版されました。役者絵のうち、胸から上、特に歌舞伎役者の顔をクローズアップしたものを「大首絵」と呼びます。これはいわば今でいう人気役者のプロフィールです。



今月紹介するのは、版元の名前をとり、「錦昇堂版大首絵」と呼ばれるシリーズの1枚。描かれるのは石川五右衛門を演じた有名歌舞伎役者、二代目風雛助「眠獅」は、雛助が俳句を詠む時に用いた俳名です。絵師である二代目豊国は、初め国貞を名乗るのちに師匠の名前を継ぎ、豊国を名乗りました。役者絵の名人として人気を博し、生涯最も多くの浮世絵を売った絵師ともいわれる幕末を代表する人気浮世絵師です。



Our community

夢中になる時間

舞鶴人権擁護委員協議会

私たち人権擁護委員は、法務大臣から委嘱されて活動しています。舞鶴協議会では、14人の委員が力を合わせ、法務局や市と連携して、地域の皆さんから人権相談を受け、問題解決のお手伝いをしたり、人権侵害の被害者を救済したり、地域の皆さんに人権について関心を持ってもらえるような啓発活動を行っています。

インターネット上の人権侵害をはじめとする新たな人権問題にどう対応

応じていくかなど、難しいと感じることもよくありますが、街頭啓発での「頑張つてね」や老人福祉施設での「また来てね」や相談に来られた人からの「ありがとう」の言葉に励まされています。また「人権の花」運動で訪れる保育所や幼稚園、小学校などでは、子ども達の笑顔に出会うことができ、とても力づけられています。微力ですが、これからも協力して、問題解決のために最善の方法を考え、豊かな人権感覚を育む活動を推進していきます。



法務大臣表彰を受賞

藤村由紀さん(大波上)
長年にわたり人権擁護委員として従事され、その業績が評価されました。

▼詳しくは、京都地方法務局 舞鶴支局(☎76・0858)へ。

掲載団体を随時募集中 広報広聴課(☎66・1041)
自治会・ボランティア団体・学校・サークル団体などの活動を紹介(応募多数の場合優先)。下コードからアクセス可。

